

「あなたたちは城南の誇りです」(211本の城南桜)

校長 赤木 完治

「当たり前がたくさん」の城南中

まだ、新年度が始まって1ヶ月あまりではありますが、1年生の城南桜を迎え、本校71年目の新しい城南中学校の歴史は、確実に動き出しています。

先日、本校の避難訓練がありました。私が避難場所の校庭で、避難の様子を見ていると、やはり今年も学年を問わず一生懸命走って避難してくる子どもたちにとっても感心させられました。私は常日頃、「練習は本番のつもりで、本番は練習のつもりで落ち着いて！」と子どもたちに言っています。「そんなこと当たり前」と思うかもしれませんが、残念ながらこの「当たり前」が、中々徹底できないことが、今この世の中には多々あるのが現状です。でも、本校の子どもたちは、この「大切な当たり前」を自分のこととして自覚・行動することができます。本校は、「本校独自のさいたま市1」を多々目指しています。が、この「素直さ」「やさしさ」「素朴さ」は、十分にさいたま市1であると確信しています。やはり、いいものはいい。この時期、地域の方々と話をする機会も多く、その際、本校の生徒の話をするとうしても本校生徒の自慢になってしまうのですが、保護者や地域・各種団体の方々は、それをまるで自分の家族のように喜んでくれます。これが本校教育活動の原動力。日頃から強い理解と共生の意識を持って、本校学校教育活動を支援してくれるPTAや地域の皆さんの存在は大です。本当に感謝の念に耐えられません。こうした声や励ましの言葉、温かい見守りこそが、本校の目指す「生きたい学校、行かせたい学校NO. 1」につながるものと考えます。「ダメなものはダメ！いいものはいい！」も私の「口癖」。でも、ダメというのは、必ず理由がある。何気ない生活の中にも命に関わることに繋がってしまう危険もあ

るのです。学校は、家庭や地域と共に育成するという「共育」の視点のもとでの相互協力が大切と考えます。今後も、変わらぬ温かい見守りを切にお願いします。

「成長しています」城南魂ここにあり！

最近、地域の方からよく聴く言葉に、「城南中生は、挨拶がよくなったね」というお褒めの言葉です。さいたま市では「心を潤す4つの言葉」があります。その4つは、

- ①はい
 - ②ありがとうございます
 - ③ごめんなさい
 - ④おはようございます
- の4つです。人と



して大きく成長するための基盤には、「素直な心の育成」が不可欠です。当初、恥ずかしがり屋さんが多い本校生徒は、大きな声での挨拶は少なかったものの、最近では、遠く離れた所からでも「校長先生、おはようございます！」の声が響きます。単なる形だけの挨拶ではありません。目の輝きが違う！すばらしいことです。また、「小さい学校でも城南魂で負けるな！」も私の口癖。中々、達成できなかった部活動等の予選突破・県大会出場という悲願を、今回「女子バレーボール部」が達成してくれました。もちろん、勝てばいいのではありません。大きな学校にも負けずに必死で頑張り抜いた本校生徒のすばらしさを言っているのです。今後もこの「城南魂」を発揮してくれる生徒や部活動等が続くものと確信しております。他にもまだまだ、本校「城南桜」の自慢話がありますが、数え上げたらきりがありません。是非、学校公開等の学校行事に本校にご来校いただき、直接本校自慢の「城南桜」をご覧ください。「明るく、やさしく、素直な城南の子どもたちと本校職員」が、お迎えいたします。お待ちしております！「頑張れ、211本の城南桜！」